

注 意 事 項

1. 試験問題の数は55問で解答時間は正味1時間15分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
 - (1) (例1)、(例2)及び(例3)の問題では1から4までの4つの選択肢、もしくは1から5までの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例1)、(例2)では1つ、(例3)では2つ選び答案用紙に記入すること。
 なお、(例1)、(例2)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。(例3)の質問には、1つ又は3つ以上解答した場合は誤りとする。

(例1)

101 助産業務を行うことが可能となるのはどれか。

1. 国家試験受験日以降
2. 合格発表日以降
3. 合格証書受領日以降
4. 助産師籍登録日以降

正解は「4」であるから答案用紙の④をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	①	②	③	④
			↓	
101	①	②	③	●

答案用紙②の場合、

101	101
①	①
②	②
③	③
④	●

→

(例 2)

102 保健師助産師看護師法が制定された年はどれか。

1. 明治 32 年(1899 年)
2. 大正 4 年(1915 年)
3. 昭和 23 年(1948 年)
4. 昭和 43 年(1968 年)
5. 平成 13 年(2001 年)

正解は「3」であるから答案用紙の③をマークすればよい。

答案用紙①の場合、					答案用紙②の場合、						
102	①	②	③	④	⑤	102	①	②	③	④	⑤
			↓								
102	①	②	●	④	⑤			→ ●			

(例 3)

103 助産師籍に登録されるのはどれか。2つ選べ。

1. 生年月日
2. 受験年月日
3. 卒業年月日
4. 就業年月日
5. 登録年月日

正解は「1」と「5」であるから答案用紙の①と⑤をマークすればよい。

答案用紙①の場合、					答案用紙②の場合、						
103	①	②	③	④	⑤	103	①	②	③	④	⑤
			↓								
103	●	②	③	④	●			→ ③			

DKIX-04-前H-2

(2) 計算問題については、に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には丸数字1つにつき2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4)

104 50床の病棟で入院患者は45人である。

この病棟の病床利用率を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数点以下第1位を四捨五入すること。

解答：①②%

- | | |
|---|---|
| ① | ② |
| 0 | 0 |
| 1 | 1 |
| 2 | 2 |
| 3 | 3 |
| 4 | 4 |
| 5 | 5 |
| 6 | 6 |
| 7 | 7 |
| 8 | 8 |
| 9 | 9 |

正解は「90」であるから①は答案用紙の(9)を②は(0)をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

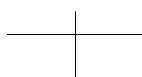
①	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(●)
104	(●)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)

答案用紙②の場合、

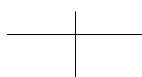
104	①	②
	(0)	(●)
	(1)	(1)
	(2)	(2)
	(3)	(3)
	(4)	(4)
	(5)	(5)
	(6)	(6)
	(7)	(7)
	(8)	(8)
	(●)	(9)

DKIX-04-前H-3

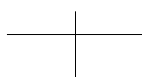
DKIX-04-前H-4



DKIX-04-前H-5



DKIX-04-前H-6



- 1 乳癌で正しいのはどれか。
 1. 前癌状態として乳腺症がある。
 2. 好発部位は乳房の内下部である。
 3. 閉経後の肥満がリスク因子である。
 4. 発症年齢のピークは 60 歳代である。

- 2 妊娠初期の過剰な摂取によって胎児の異常が生じる危険性がある栄養素はどれか。
 1. ビタミン A
 2. ビタミン B₁
 3. ビタミン B₆
 4. ビタミン B₁₂

- 3 母体保護法第 14 条に明記されている人工妊娠中絶の適応となるのはどれか。
 1. 胎児が染色体異常であると診断された。
 2. 妊婦が妊娠中に梅毒に感染した。
 3. 暴行によって妊娠した。
 4. 妊婦が 14 歳である。

- 4 子宮頸がん検査の検体採取の説明で正しいのはどれか。
 1. 頸管に麻酔をする。
 2. 頸管粘液を採取する。
 3. 子宮口の扁平円柱上皮結合部を擦過する。
 4. プレパラートに塗布した検体を凍結保存する。

5 排卵期に血中濃度が急上昇するのはどれか。

1. エストロゲン
2. バソプレシン
3. プロゲステロン
4. 黄体形成ホルモン〈LH〉

6 妊娠による性器の変化で正しいのはどれか。

1. 初期に卵巣は腫大する。
2. 膣内の乳酸の産生が減少する。
3. 子宮頸部は体部より早期に軟化する。
4. 子宮壁の厚さは妊娠末期に最大となる。

7 胎盤通過性で正しいのはどれか。

1. グルコースは通過しない。
2. 免疫グロブリン IgG は通過する。
3. 水溶性が高い物質ほど通過しやすい。
4. 分子量が大きい物質ほど通過しやすい。

8 骨盤峡部の前後径を表しているのはどれか。

1. 恥骨結合後面中央と第2、3仙椎癒合部の中央との距離
2. 岬角の中央から恥骨結合上縁中央までの距離
3. 恥骨結合下縁から仙骨下端中央までの距離
4. 左右寛骨臼内面中心間の距離

9 産褥4日の初産婦。産後の経過に異常はなく、母乳育児をしている。明日退院予定である。2年後に2人目の子どもが欲しいと話した。

産後の避妊法の説明として適切なのはどれか。

1. コンドームは産後8週まで使用できない。
2. ペッサリーは妊娠前と同じサイズのものでよい。
3. 低用量経口避妊薬は産後1か月から使用できる。
4. 子宮内避妊器具<IUD>は子宮の復古が確認されたら挿入できる。

10 A病院では希望がある場合に助産師による家庭訪問を行っている。5月、正常分娩して退院した初産婦の産褥10日に家庭訪問を行うことになった。

家庭環境について把握する項目で最も重要なのはどれか。

1. ベビーバスの有無
2. 児の冬服の準備状況
3. 温度および湿度調整の可否
4. 独立した育児用の部屋の有無

11 妊婦の心理で多くみられるのはどれか。

1. 妊娠初期に胎児への関心が最も高まる。
2. 妊娠中期にアンビバレントな感情が強くなる。
3. 出産準備教育を受けることで出産に対する不安は消失する。
4. 妊娠による体型の変化のとらえ方と妊娠の受容は関連する。

12 Aさん(33歳、経産婦)。夫と長男(3歳)との3人暮らし。妊娠24週2日の妊婦健康診査で来院した。妊娠経過は順調である。診察時、助産師に「前回の出産は1人で長い時間陣痛に耐えて痛くてつらかったです。夫は仕事で出産後に病院に到着しました。今回の付き添いも夫と話したけど、難しそうです。また同じ思いをするのかと思うと、不安です」と話す。

Aさんへの対応で最も適切なのはどれか。

1. 経産婦の平均分娩所要時間を説明する。
2. 硬膜外麻酔分娩について情報提供する。
3. 子どもの立会い出産を検討するよう促す。
4. Aさんが希望するケアについて話し合う。

13 産褥の時期と子宮復古の正常な所見の組合せで正しいのはどれか。

1. 産褥 2日 ———— 子宮底を臍高に触知
2. 産褥 7日 ———— 外子宮口1指開大
3. 産褥 14日 ———— 赤色悪露
4. 産褥 28日 ———— 手拳大の子宮

14 Aさん(26歳、初産婦)。妊娠39週6日で2,850gの女児を正常分娩した。本日産褥2日、助産師が訪室すると、Aさんが児に布団をかけずに寝かせていた。児の検温をすると36.4℃で、手足にやや冷感を認めた。

助産師の対応で最も適切なのはどれか。

1. 母児同室を一時中断する。
2. 育児のパフレットを渡す。
3. 頻回に児の体温計測を行うよう指導する。
4. 一緒に児の手足を触りながら冷感について説明する。

15 Aさん(38歳、初産婦)。母乳で育てたいと強く希望している。産褥3日、授乳時に児が泣き止まず助産師が呼ばれた。授乳状況は、児の顎が下に向いて乳房で顔がふさがり、児の首がねじれた状態で、Aさんは自分の乳房を強くつかんで押し込んでいた。

助産師の説明として、適切なのはどれか。

1. 「乳房を支えて赤ちゃんに近づけましょう」
2. 「赤ちゃんの下顎が乳房に触れないようにしましょう」
3. 「赤ちゃんの耳、肩、おしりが一直線になるように抱っこしましょう」
4. 「赤ちゃんを乳房に近づけるときは、下唇が乳頭の位置にくるようにしましょう」

16 Aさん(34歳、初産婦)。妊娠41週1日。予定日超過のため誘発分娩目的で入院した。入院後2日目に陣痛発来したが、回旋異常のため吸引分娩で出産した。分娩時出血量700mL、分娩所要時間は32時間であった。出生時体重3,560g、Apgar〈アプガー〉スコアは1分後7点、5分後10点であった。Aさんは分娩中、陣痛時は大声をあげ、分娩台の上での体動が大きく、分娩後は「こんなはずではなかった」と表情は暗かった。

Aさんへの対応で最も適切なのはどれか。

1. 頻回授乳の促し
2. 分娩体験の振り返り
3. 母児同室の早期の開始
4. 産後ケア事業の情報提供

17 母乳栄養希望のあるヒト T 細胞性白血病ウイルス-I 型〈HTLV-1〉キャリア妊婦
に対して推奨される第一選択の授乳指導はどれか。

1. 離乳の完了までの直接母乳栄養
2. 生後 90 日までの直接母乳栄養
3. 凍結母乳による栄養
4. 完全人工栄養

18 生後 1 か月の健康診査時、母親から児のいちご状血管腫について相談を受けた。
母親への助産師の説明で正しいのはどれか。

1. 「日光には当てないでください」
2. 「局所の感染に注意する必要があります」
3. 「治療に関して小児科で相談してください」
4. 「皮脂の分泌過多が原因で症状が悪化します」

19 戦後の母子保健施策を年代順に古いものから表に示す。

年 代	母子保健施策
1950年代	母子健康センターの設置
1960年代	新生児訪問指導の開始 3歳児健康診査の開始 母子保健推進員制度の制定 ()
1970年代	1歳6か月児健康診査の開始

()に入るのはどれか。

1. 育成医療の開始
2. 未熟児養育医療の開始
3. B型肝炎母子感染防止事業の開始
4. 妊産婦健康診査の公費負担制度の制定

20 平成30年(2018年)の母子保健統計で正しいのはどれか。

1. 合計特殊出生率は約1.8である。
2. 周産期死亡数は約3,000人である。
3. 人工妊娠中絶実施率(女子人口千対)は約1.0である。
4. 女性の労働力率を年齢階級別にみると逆U字型曲線を描く。

21 妊婦健康診査で HBs 抗原陽性、HBe 抗原陽性を指摘された初産婦に対して行う母子感染予防策で正しいのはどれか。

1. 出産直前の母体に抗ウイルス薬投与を行う。
2. 予定帝王切開で分娩を行う。
3. 出生直後の児に B 型肝炎ワクチン接種を行う。
4. 生後 2 か月で抗 HBs ヒト免疫グロブリン投与を行う。

22 公的医療保険が適応されるのはどれか。

1. 新生児の沐浴指導料
2. 正常経膈分娩の分娩介助料
3. 貧血を生じた褥婦に対する鉄剤の処方料
4. 新生児の先天性代謝異常等マススクリーニング検査費用

23 法律において、「使用者は、産後〔①〕週間を経過しない女性を就業させてはならない。ただし、産後〔②〕週間を経過した女性が請求した場合において、その者について、医師が支障がないと認めた業務に就かせることは、差し支えない」と規定されている。

①と②に入る数字の組合せで正しいのはどれか。

- | | ① | ② |
|----|---|---|
| 1. | 4 | 6 |
| 2. | 6 | 8 |
| 3. | 8 | 4 |
| 4. | 8 | 6 |

24 児童虐待の防止等に関する法律〈児童虐待防止法〉に明記されている助産師の役割はどれか。

1. 児童虐待の早期発見
2. 虐待を受けた児童の一時保護
3. 虐待のおそれがある児童の居所への訪問
4. 保護者に対する児童虐待防止のための教育

25 周産期病棟における新生児の安全管理で適切なのはどれか。

1. 児の移動は抱っこで行う。
2. 児の総数は1日1回確認する。
3. 児の識別用ネームバンドは退院日の朝に外す。
4. 新生児の姓名(ネームカード)が廊下から見えないようにする。

26 陣痛発来後に分娩進行が停滞した産婦に対し、陣痛促進を目的として実施した足浴の効果を評価するための指標で適切なのはどれか。

1. 足浴実施から分娩終了までの時間
2. Apgar〈アプガー〉スコア
3. 回旋異常の頻度
4. 鉗子分娩の比率
5. 分娩時出血量

27 月経前症候群〈PMS〉で正しいのはどれか。

1. 日常生活に支障がある。
2. 薬物治療は無効である。
3. 更年期症状の一つである。
4. 原因は子宮内膜症である。
5. 月経前不快気分障害〈PMDD〉は軽症型である。

28 胎児超音波検査において後頸部透亮像〈nuchal translucency：NT〉の評価時期で適切なものはどれか。

1. 妊娠 9 週
2. 妊娠 12 週
3. 妊娠 18 週
4. 妊娠 24 週
5. 妊娠 30 週

29 日本人の食事摂取基準(2015年版)で、妊娠中の女性が非妊時と同量の摂取で良いとされる栄養素はどれか。

1. カルシウム
2. タンパク質
3. 鉄
4. ビタミン C
5. 葉酸

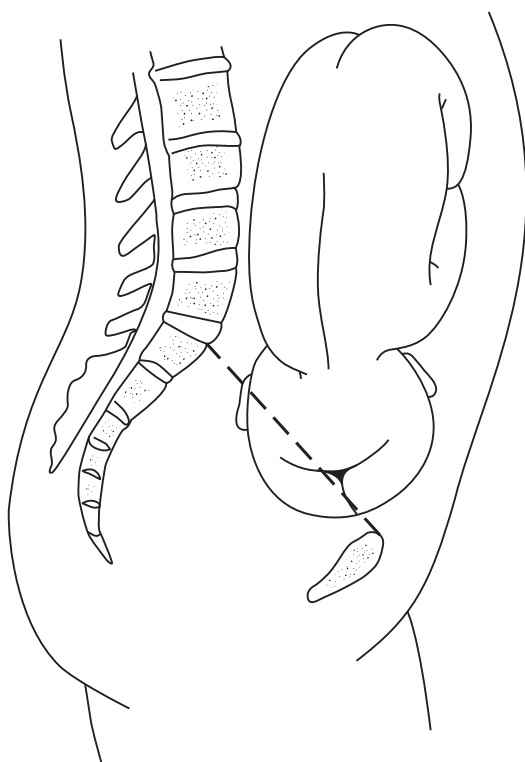
30 出生直後の新生児の血糖維持の機序において、最も早期に効果が発現するホルモンはどれか。

1. グルカゴン
2. カテコラミン
3. コルチゾール
4. 成長ホルモン
5. 甲状腺ホルモン

31 Rubin〈ルービン〉の母性論の模倣にあたるのはどれか。

1. 受動的な行動である。
2. 悲嘆作業の一つである。
3. 模写と役割演技がある。
4. 妊娠期に限定された行動である。
5. 自分なりの方法で子どもの世話をする。

32 分娩第1期の母体内の胎児の図を示す。



図の状態はどれか。

1. 正軸進入
2. 低在横定位
3. 高在縦定位
4. 前在頭頂骨進入
5. 後在頭頂骨進入



33 Aさん(32歳、初妊婦)。妊娠39週5日、陣痛発来後、3時間の経過で3,850gの児を分娩した。胎盤娩出直後から子宮収縮が不良で、子宮双手双合圧迫法が行われた。分娩後30分時点で出血量の総量が1,500mLを超えたが、子宮からの出血が持続している。体温37.3℃、脈拍120/分、血圧95/50mmHg、経皮的動脈血酸素飽和度(SpO₂)99%(room air)。

この時点での新鮮凍結血漿の輸血の判断に必要な血液検査値で最も重要なのはどれか。

1. 血小板数
2. 白血球数
3. ヘモグロビン値
4. 血清アルブミン値
5. フィブリノゲン値

34 妊娠分娩経過に問題なく、経膈分娩で出生した正期産新生児の感染予防対策として正しいのはどれか。

1. 出生直後に胎脂を拭い取る。
2. 出生直後に抗菌薬の点眼を行う。
3. 生後1時間以内に初回の沐浴を行う。
4. 臍帯断端をポビドンヨードで消毒する。
5. 早期母子接触時に母親に手袋を装着させる。

35 1 か月児健康診査に来院した母親と児。完全母乳栄養で児の全身状態は良好だが、睡眠中に呼吸が2～3秒停止することがあり、乳幼児突然死症候群(SIDS)を母親は心配している。児は家ではベビーベッドに仰臥位で就寝しており、寝入ると体温は37℃台後半のことが多く、また溢乳が1日10回程度認められている。

母親への指導で正しいのはどれか。

1. 夜間の人工栄養を併用する。
2. 児を温めすぎないようにする。
3. 夜間は添い寝で児を観察する。
4. 寝かせはじめは腹臥位にしておく。
5. 表面が柔らかいマットレスを使用する。

36 妊娠初期の母体の生理的特徴で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 糸球体濾過率(GFR)が増加する。
2. インスリンの感受性が亢進する。
3. 全身の循環血液量が最大となる。
4. 肺の1回換気量は低下する。
5. 体温が上昇する。

37 妊娠34週の胎児の発育について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 身長は約35cmである。
2. 成長速度は1日15gである。
3. 羊水中のレシチンが急増する。
4. 胎動に伴い一過性頻脈がみられる。
5. レム睡眠よりノンレム睡眠の時間が長い。

38 38℃以上の発熱がある妊婦で Lencki(レンキ)の臨床的絨毛膜羊膜炎の診断基準に当てはまるのはどれか。2つ選べ。

1. 子宮の圧痛
2. 羊水の混濁
3. 膣分泌物の増加
4. 母体脈拍 110/分
5. 白血球数 12,000/ μ L

39 頭位分娩の分娩介助技術で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 肛門が哆開してきたら肛門保護を行う。
2. 後頭結節が外れたら直ちに児頭娩出させる。
3. 前在肩甲娩出時は肛門方向に軽く押す。
4. 後在肩甲娩出時は産婦に努責を促す。
5. 躯幹は骨盤誘導線に沿って大回りで通過させる。

40 光線療法が適応となる新生児黄疸の原因疾患はどれか。2つ選べ。

1. 新生児肝炎
2. 胆道閉鎖症
3. 先天性胆道拡張症
4. 遺伝性球状赤血球症
5. ABO 不適合溶血性疾患

次の文を読み 41～43 の問いに答えよ。

A さん(64 歳、女性)は夫が昨年到他界し、3 人の子どもと別居しており現在 1 人暮らしである。婦人科外来を受診し「昨年かから軟らかいかたまりが膣のところに触れられる。押すと戻るがまた出てきて困っている。下着とこすれて、おりものが多い」と訴えた。診察の結果、A さんは膀胱下垂を中心とした骨盤臓器脱と診断された。A さんはペッサリーによる矯正を行うことになり、助産師が保健指導を実施することとなった。

41 助産師が「骨盤内の臓器を支える力が弱くなると、一部が膣内に垂れたり、膣口から脱出して、触れることがあります」と説明すると、A さんから「私の場合は何が触れているのか知りたい」と質問があった。

A さんへの回答として、適切な部位はどれか。

1. 膀胱
2. 子宮頸部
3. 膣前壁
4. 後膣円蓋
5. 直腸筋膜

42 Aさんは「ペッサリーを使うようになってから、臓器が降りてくる感じがなくなりました。でも、尿漏れが少し気になっています。自分でできることがあれば教えてほしい」と話した。助産師はKegel〈キーゲル〉体操の実施を提案することにした。

説明として正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 「膀胱に尿をためて行いましょう」
2. 「どんな姿勢で行ってもよいです」
3. 「肩と腹に力を入れましょう」
4. 「膣のあたりに力を入れて5秒間くらい維持しましょう」
5. 「1回行ったら2～3日間隔をあけましょう」

43 その後の半年間、Aさんは毎月受診し経過は順調であった。Aさんは「昨年から悩んでいたけど、いまはスッキリしました。治療してよかったです」と話した。今後もペッサリーの自己着脱は継続し、受診頻度は減らす方針である。

今回の受診時に助産師が確認すべきAさんの状態はどれか。2つ選べ。

1. 骨量
2. 膣内pH
3. 排尿の状態
4. 排便の状態
5. 膣出血の有無

次の文を読み 44～46 の問いに答えよ。

A さん(40 歳、1 回経産婦)。20 歳から喫煙している。今回、妊娠を機に禁煙を試みたが、現在も 5 本/日喫煙している。妊娠 36 週 0 日、妊婦健康診査のため産婦人科病院を定期受診した。身長 158 cm、体重 62 kg (非妊時体重 55 kg)、血圧 135/80 mmHg。尿蛋白(+)、尿糖(±)。子宮底長 28 cm。空腹時血糖 85 mg/dL。胎児推定体重 1,950 g、AFI 8。胎児心拍数陣痛図で子宮収縮 2 回/40 分、胎児心拍数基線 120 bpm、基線細変動正常、一過性頻脈 3 回/40 分。子宮口 1 指開大、展退度 30 %、頸管長 30 mm。

44 現時点でのアセスメントで正しいのはどれか。

1. 切迫早産
2. 羊水過多
3. 妊娠糖尿病
4. 胎児発育不全
5. 妊娠高血圧症候群(HDP)

45 妊娠 37 週 3 日、午前 1 時に A さんから病院に電話があり「30 分位前から時々下腹部の痛みを感じています。茶色いおりものが少量でています」と言う。

助産師が A さんから聴取する情報で最も重要なのはどれか。

1. 次回の受診予約
2. 食事摂取の時間
3. 胎動の有無
4. 便秘の有無

46 その後、Aさんは自宅で経過をみることになった。同日午後2時にAさんが直接来院し、「1時間ほど前からお腹の痛みが急に強くなり、時々血が膣から流れ出ています」と言う。来院時体温37.0℃、脈拍100/分、血圧135/85 mmHg。胎児心拍数陣痛図で3分毎の子宮収縮があり、心拍数の基線細変動が減少しており、遅発性一過性徐脈が確認された。緊急帝王切開術が施行された。術中出血量は羊水を含めて2,600 mLであった。羊水に血液が混じっており、胎盤の母体面の一部に血腫の付着が認められた。

手術室から帰室した時点のAさんの観察項目で最も重要なのはどれか。

1. 膣からの出血量
2. 下肢の浮腫
3. 腸蠕動音
4. 発熱

次の文を読み 47～49 の問いに答えよ。

在胎週数 32 週、出生体重 1,800 g、児心音低下のため緊急帝王切開で出生した男児。出生直後、啼泣なく筋緊張は低下。温めたタオルで羊水を拭き取り、口鼻腔内から白色の分泌物を吸引した。心拍は 6 秒間に 3 回であった。直ちに人工呼吸が行われ、経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO₂〉モニターと心電図モニターが装着された。生後 2 分が経過しても自発呼吸を認めなかったため、気管挿管による人工呼吸と胸骨圧迫が開始された。生後 5 分の評価で、心拍数 50/分、自発呼吸はなく、全身性チアノーゼを認めた。

47 最初に投与すべきなのはどれか。

1. ドパミン
2. 生理食塩液
3. 新鮮凍結血漿
4. アドレナリン
5. 重炭酸ナトリウム

48 救命された児は母との面会のあと NICU に入院となった。児は保育器に収容され、人工呼吸器が装着された。血液検査や胸腹部エックス線撮影の結果、呼吸窮迫症候群と診断され人工肺サーファクタント補充療法が行われた。

1 時間後の児のバイタルサインは体温 37.0℃、心拍数 138/分、血圧 48/28 mmHg、経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO₂〉94 % (上肢)、83 % (下肢) で上下肢差を認めた。

考えられる病態はどれか。

1. 壊死性腸炎
2. 大血管転位症
3. 胎便吸引症候群
4. 新生児遷延性肺高血圧症

49 生後3週、児は保育器の中で経管栄養を行っている。呼吸補助や酸素投与は不要で、体重は出生体重に回復し、本日初回の眼底検査を受けることになった。

このときの児への対応で正しいのはどれか。

1. 空腹時の検査を避ける。
2. 照明下で検査を実施する。
3. 検査前に抗菌薬を点眼する。
4. 開瞼器の圧迫による迷走神経反射に注意する。

次の文を読み 50～52 の問いに答えよ。

Bさん(39歳、1回経産婦)。妊娠32週の妊婦健康診査目的でA病院の助産師外来を受診した。血圧126/68 mmHg。尿蛋白(-)、尿糖(-)。下肢浮腫(±)。子宮底28 cm。推定胎児体重1,950 g。胎動あり。Bさんは「上の子の出産後に会陰切開の痛みが強かったので、できれば今回は会陰切開をせずにお産したいです」と話している。

50 このときの助産師外来の助産師の対応で最も適切なのはどれか。

1. 会陰切開が必要かはわからないと伝える。
2. 会陰切開の創痛には鎮痛薬を使用できると説明する。
3. 妊娠37週以降に会陰切開について話し合う計画を立てる。
4. 会陰切開に対する希望をバースプランに記載するよう勧める。

51 Bさんは、妊娠39週で3,450 gの男児を正常分娩した。産褥3日、Bさんは疲れた様子で、泣いている児をあやしている。助産師が声をかけると「上の子はこんなに泣かなかったのに、この子は何をしても泣き止まなくて、どうしていいかわかりません」と張りのない声で答え、涙を流している。助産師はマタニティブルーを疑い、退院後のフォローアップについて検討するためにカンファレンスを行った。A病院は、母親のメンタルヘルスの支援を充実させるために、保健センターとの連携を強化している。

Bさんのマタニティブルーの経過を評価するときの方法と評価者との組合せで、最も適切なのはどれか。

1. 退院後1週以内の電話による状況確認 ————— A病院の助産師
2. 産後1か月健診 ————— A病院の助産師外来の担当者
3. 新生児訪問事業 ————— 保健センターの保健師
4. 乳児家庭全戸訪問事業 ————— 乳児家庭全戸訪問事業の訪問員

52 Bさんは、産後の身体的な経過は良好で、授乳も順調で母乳栄養である。退院前日、夫から第1子(3歳)がインフルエンザと診断されたと連絡があった。Bさんは、妊娠中にインフルエンザワクチンを接種している。A病院の産科病棟は、子どもの立ち入りが禁止されている。Bさんは退院を強く希望し、主治医と相談した結果、予定通り退院することになった。Bさんは「退院後にこの子(第2子)の育児で注意することを教えてください」と話している。

Bさんへの指導内容で正しいのはどれか。

1. 沐浴を中止する。
2. 手洗いを励行する。
3. 搾乳して児に与える。
4. 第2子の衣類は第1子と分けて洗濯する。

次の文を読み 53、54 の問いに答えよ。

A さん(33 歳、初産婦)。自然妊娠し、産婦人科病院で妊婦健康診査を受けており妊娠経過は順調であった。子宮底部前壁に 4 cm 大の子宮筋層内筋腫が指摘されていた。妊娠 38 週の妊婦健康診査では児の推定体重 2,860 g、羊水量正常で胎盤位置は子宮底部の後壁であった。妊娠 39 週 2 日、午後 10 時に陣痛が開始して来院した。体温 37.4℃、心拍数 85/分、血圧 125/75 mmHg。内診所見は頭位、子宮口 6 cm 開大、展退度 80%、Station ±0、未破水で入院となった。

入院時の胎児心拍数陣痛図(別冊No. 1)を別に示す。

53 この胎児心拍数陣痛図の徐脈性変化の原因で最も適切なのはどれか。

1. 臍帯圧迫
2. 子宮筋腫
3. 母体発熱
4. 胎児発育不全
5. 産道による児頭圧迫

別 冊 No. 1

54 入院翌日の午前4時に破水となり、内診所見は子宮口全開大、Station+2であった。午前5時の時点で陣痛周期3分、陣痛持続時間1分でAさんは仰臥位で陣痛時にいきみを生じている。内診所見はStation+3で、軽度産瘤形成があり、矢状縫合は斜めの向きで大泉門を10時方向に触れた。胎児心拍数陣痛図では胎児心拍に異常は認めない。

このときのAさんへの助産師の対応で正しいのはどれか。

1. 帝王切開の準備をする。
2. 吸引分娩の準備をする。
3. Aさんにマスクによる酸素投与を行う。
4. Aさんの体位を変えて経過を観察する。
5. 強く努責を行うことをAさんに勧める。

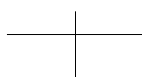
次の文を読み 55 の問いに答えよ。

A さん(30 歳、1 回経産婦)。第 1 子は骨盤位のため 38 週 0 日に予定帝王切開で出産した。今回の妊娠経過は順調で、A さんは経膈分娩を希望している。妊娠 38 週 3 日 9 時、陣痛発生し入院した。入院時子宮口 3 cm 開大、未破水。末梢静脈の血管確保をして経過観察をしていたところ分娩は順調に進行し、14 時の内診では子宮口 9 cm 開大、Station +1、破水していた。その直後、A さんは突然激しい腹痛を訴えた。呼吸数 30/分、血圧 70/30 mmHg、脈拍 120/分。胎児心拍数陣痛図では変動一過性徐脈が出現し、その後高度徐脈となった。直ちに助産師が内診を行うと児頭を触知できなかった。異常な性器出血はみられなかった。

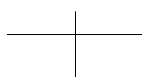
55 このときの A さんの状態で最も考えられるのはどれか。

1. 頸管裂傷
2. 子宮破裂
3. 常位胎盤早期剝離
4. 仰臥位低血圧症候群

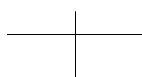
DKIX-04-前H-33



DKIX-04-前H-34



DKIX-04-前H-35



DKIX-04-前H-36

